

静岡県町村会長賞

## 笑顔と幸せ

静岡市立清水庵原中学校

三年 天野 暖

私は、犬を飼っています。犬種は、ラブラドル・レトリバーです。ラブラドル・レトリバーと言えば、盲導犬として働いている犬です。

私は、盲導犬とはどのような仕事をしているのか気になり、盲導犬を育てている施設へ行きました。まず、その施設に入り、目に入ったのは子犬たちです。その子犬たちは、将来、盲導犬になる犬たちですが、子犬の時から訓練ではなく、一歳まで、パピーウォーカーというボランティアの人たちに育ててもらい、「人間と暮らすのは、すごく楽しい事なんだよ。」と言う事を分かってあげると、一年間にするそうです。そして、一歳から訓練を行い、試験に合格すると盲導犬になります。

盲導犬とは、視覚障害者を安全に快適に誘導し、視覚障害者の方々が、行きたい場所に安全に出かけられる様に、障害物を避けたり、段差や角を教えたりする犬たちのことです。

私は、その施設へ行き、実際に盲導犬と出会った一人の女性の話を聞けることになりました。その女性は、中心だけ見えて周りが全く見えない、求心狭窄の人です。米つぶ程度の視野し

か見えないそうです。全く見えないという事ではありませんが、毎日がとても不安で、出かける事も減ってしまいました。そんな時、その女性の家族から「盲導犬と生活してみたら？」と言われ、盲導犬と出会いました。最初は、「この子にしっかりと合図ができるのだろうか。」と不安でいっぱいだったのですが、その女性と盲導犬が共同訓練という訓練を行うと、とても楽しく「不安」という気持ちが無くなったそうです。それから、盲導犬といると毎日が楽しく、「今日は、あそこへ行こう。」

「明日は、これしよう。」と、何かに「挑戦したい！」と、言う気持ちになり、前とは全く違う自分になり、全く違う楽しい生活を過ごすことができています。

盲導犬は、十歳前後でハーネスを外し、盲導犬という仕事から引退します。この施設には、引退した犬たちがのんびりと過ごせる場所があり、一生を終えた犬たちのために、盲導犬慰霊碑があり、亡くなった犬たちの供養ができるようになっていきます。

人間たちも犬たちも毎日が幸せになり、犬たちを最後の最後まで大事に扱っていることは、とても大切なことだと思いました。このような施設や人間たちももっとも増え、全国に「笑顔と幸せが広がる」といいなあって、思いました。